

# エジプト学研究第 22 号 2016 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.22, 2016

## 目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2015 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
第 23 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報	吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・高橋寿光・竹野内恵太・山崎美奈子・福田莉紗	15
第 24 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報	吉村作治・河合 望・近藤二郎・高宮いづみ・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・松永修平・山崎世理愛	29
アブ・シール南丘陵遺跡第 23 次・第 24 次調査保存修復作業	苅谷浩子・柏木裕之・高橋寿光・河合 望・吉村作治	41
第 12 次アブ・シール南丘陵遺跡調査において出土した集団埋葬墓人骨の人類学的分析（予報）	坂上和弘・馬場悠男・平田和明	51
非破壊オンサイト蛍光 X 線分析によるアブ・シール南丘陵遺跡集団埋葬墓出土遺物の化学的特性化	阿部善也・大越あや・内沼美弥・扇谷依李	69
エジプト ダハシュール北遺跡調査報告—第 22 次調査—	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・柏木裕之・竹野内恵太・山崎世理愛	91
第 8 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・高橋寿光・竹野内恵太・福田莉紗	113
〈論文〉		
エジプト先王朝時代ネケンにおける石製容器の穿孔法—石器使用痕観察と穿孔実験からの推定—	長屋憲慶	149
〈研究ノート〉		
古代エジプトの親族名称研究の現状と課題	齋藤久美子	167
図像資料からみたエジプト中王国時代の装身具研究序論	山崎世理愛	179
〈動向〉		
埃及学指南のための覚書	河合 望	205
〈活動報告〉		
2015 年度 日本エジプト学会活動報告		229
2015 年 エジプト調査		233

# The Journal of Egyptian Studies Vol.22, 2016

## CONTENTS

Preface .....	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2015, Project of the Solar Boat .....	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Twenty-Third Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2014 .....	Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Jiro KONDO, Izumi TAKAMIYA, Kazumitsu TAKAHASHI, Keita TAKENOUCI, Minako YAMASAKI and Risa FUKUDA.....	15
Preliminary Report on the Twenty-Fourth Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2015 .....	Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Jiro KONDO, Izumi TAKAMIYA, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Yuka YONEYAMA, Shuhei MATSUNAGA and Seria YAMAZAKI .....	27
Preliminary Report on the Conservation Work at North-West Saqqara in 2014 and 2015 Seasons .....	Hiroko KARIYA, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Nozomu KAWAI and Sakuji YOSHIMURA .....	41
Report on the Study of Human Skeletal Remains from the Multiple Burial in Northwest Saqqara, Egypt -Preliminary report- .....	Kazuhiro SAKAUE, Hisao BABA and Kazuaki HIRATA.....	51
Chemical Characterization of Artifacts Excavated from an Intact Multiple Burial at Northwest Saqqara by Nondestructive Onsite X-ray Fluorescence Analysis .....	Yoshinari ABE, Aya OKOSHI, Miya UCHINUMA and Eri OGIDANI.....	69
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Twenty-Second Season .....	Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Keita TAKENOUCI and Seria YAMAZAKI.....	91
Preliminary Report on the Eighth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition .....	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI Nozomu KAWAI, Kazumitsu TAKAHASHI, Keita TAKENOUCI and Risa FUKUDA.....	113
Articles		
Stone Vessel Drilling Method at Predynastic Nekhen, Hierakonpolis: Perspectives from Use-wear Trace Analysis and Experimental Drilling. .....	Kazuyoshi NAGAYA .....	149
Current Status and Issues of Kinship Terminology in Ancient Egypt .....	Kumiko SAITO .....	167
Introduction to a Study on Personal Adornments of the Middle Kingdom in Ancient Egypt through the Iconographic Analysis .....	Seria YAMAZAKI.....	179
Note on the current research tools for Egyptology.....	Nozomu KAWAI.....	205
Activities of the Society, 2015-16.....		229
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2015.....		233

## 調査報告

# 第24次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報

吉村 作治\*<sup>1</sup>・河合 望\*<sup>2</sup>・近藤 二郎\*<sup>3</sup>・高宮いづみ\*<sup>4</sup>・柏木 裕之\*<sup>5</sup>  
高橋 寿光\*<sup>6</sup>・米山 由夏\*<sup>7</sup>・松永 修平\*<sup>8</sup>・山崎 世理愛\*<sup>8</sup>

## Preliminary Report on the Twenty-Fourth Season of the Waseda University Excavations at Northwest Saqqara, 2015

Sakuji Yoshimura\*<sup>1</sup>, Nozomu Kawai\*<sup>2</sup>, Jiro Kondo\*<sup>3</sup>, Izumi Takamiya\*<sup>4</sup>,  
Hiroyuki Kashiwagi\*<sup>5</sup>, Kazumitsu Takahashi\*<sup>6</sup>, Yuka Yoneyama\*<sup>7</sup>,  
Shuhei Matsunaga\*<sup>8</sup> and Seria Yamazaki\*<sup>8</sup>

### Abstract

Waseda University Egyptian Expedition has been excavating at Northwest Saqqara since 1991. The site is located on a prominent rocky outcropping in the desert approximately 1.5 km to the northwest of the Serapeum. Excavations at the summit of the outcropping had revealed a mud-brick structure built by Amenhotep II and Thutmose IV respectively, a monument of Prince Khaemwaset, the fourth son of Ramesses II, and the tomb chapel of Isisnofret, probably a daughter of Prince Khaemwaset. The work was suspended for nearly 2 years after the revolution in 2011 and it was resumed in 2014. Since then, we have continued excavation and conservation at the site, focusing on the areas previously unexcavated or needs to be reinvestigated. In this season, we have concentrated on the three areas: the area to the south of the tomb chapel of Isisnofret, the area to the west of the inner chamber of the monument of Khaemwaset and the area around the shaft of the tomb of Isisnofret. In the course of our excavation in the area to the south of the tomb chapel of Isisnofret, a large pit measuring 2.5 m in diameter was uncovered. Although several objects were recovered from the pit, it turned out that it was probably related to the modern military activities in 1970's. In the area behind the inner chamber of the monument of Khaemwaset, several shallow pits were identified and they were also probably related to the modern military activities. In the area around the shaft of the tomb of Isisnofret, where we attempted to understand the activities from the original excavation of the shaft and thereafter looking activities in antiquities, we found a number of the pottery shards which seem to have come from either burial chamber or ritual activities outside of the shaft. We also found a concentration of the piles of mud-bricks, which may have been the remnant of the work preparing for construction in the area to the north of the shaft. In the area to the west of the shaft, we observed a depression hewn on the bedrock that coincides with the width of the shaft of the tomb of Isisnofret, which seems to have been made to remove the sarcophagus in to the shaft.

\* 1 東日本国際大学学長 / 早稲田大学名誉教授

\* 2 早稲田大学高等研究所准教授

\* 3 早稲田大学文学学術院教授 / 早稲田大学エジプト学研究所所長

\* 4 近畿大学文学部教授

\* 5 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

\* 6 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

\* 7 鶴見大学大学院文学研究科博士前期課程

\* 8 早稲田大学大学院文学研究科修士課程

\* 1 *President, Higashinippon International / Professor Emeritus, Waseda University University*

\* 2 *Associate Professor, Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University*

\* 3 *Professor, Faculty of Letters, Arts, and Sciences, Waseda University / Director, Institute of Egyptology, Waseda University*

\* 4 *Professor, Faculty of Literature, Arts and Cultural Studies, Kinki University*

\* 5 *Visiting Professor, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*

\* 6 *Visiting Lecturer, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*

\* 7 *MA Student, Department of Cultural Properties, Tsurumi University*

\* 8 *MA Student, Department of Archaeology, Waseda University*

## 1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1991年よりエジプト、アブ・シール南丘陵遺跡にて発掘調査および保存修復作業を継続してきた（図1, 2）。丘陵頂部では、これまでに新王国時代第18王朝中期のアメンヘテプ2世とトトメス4世に関連する日乾レンガ遺構、第19王朝のラメセス2世の第4王子、カエムワセトの石造建造物、その娘とみられるイシスネフェルトのトゥーム・チャペルと埋葬室が発見された。第23次調査より、カエムワセトの石造建造物、イシスネフェルトのトゥーム・チャペルとその周辺における人間活動を更に理解するために、未発掘区域の発掘調査および既掘区域で再検討が必要と考えられる箇所の新調査を行っており、今次調査においても同様の目的で調査を行った。

調査の期間は、2015年9月1日から26日で、3つの発掘区で調査を実施した<sup>1)</sup>。1つ目は、これまで未発掘であったイシスネフェルトのトゥーム・チャペルの南側の部分、2つ目は、カエムワセト石造建造物の奥室から西側の部分、3つ目は、イシスネフェルトの埋葬室に繋がるシャフトの周辺である。また、これらの発掘調査と同時にイシスネフェルトの埋葬室において石棺の保存修復作業も行った<sup>2)</sup>。

## 2. 発掘調査

### (1) イシスネフェルトのトゥーム・チャペル南側

イシスネフェルトのトゥーム・チャペルは、新王国時代の一般的なトゥーム・チャペルが東西軸を持つのに対し、南北軸を持つ遺構で、その約40m南西の地点に位置するカエムワセトの石造建造物の軸線に直交していることから、両者が何らかの関連性を持つことが推測された<sup>3)</sup>。こうした中で、トゥーム・チャペルとカエムワセトの石造建造物との間には平坦な場所が未発掘区域として残されており、この平坦な場所がどのように利用されていたかについて確認する必要がある。また、トゥーム・チャペルはこの平坦な場所よりも更に北側に、わざわざ一部地形を改変して造られており、この場所が選ばれた点について明らかにするためにも、この区域を発掘することが必要となった。このような問題意識の元に、今期調査ではイシスネフェルトのトゥーム・チャペルの南側の未発掘区域の発掘調査に着手した。この未発掘区域は、調査地区内のグリッド8Zおよび9Zに当たる（図3, 写真1）。

まず、グリッド8Zでは、南東部で深さ約90cmの掘り込みが発見され、1970年代の軍事施設の活動に関連すると思われる葉莢、1970年代発行の新聞紙、乾電池、ガラス片などの現代遺物が出土し、西側からは表土を剥ぐとすぐに地山が発見された<sup>4)</sup>。

また、グリッド9Zでは、掘り下げ直後から石灰岩が多く見られ、過去のテントの痕跡と考えられる円環状の石灰岩集中が発見された。その内側において、楕円形の掘り込みが確認されたことから、掘り下げを行った。掘り下げを進めていくと、地上から4.5mほどのところで排土に風成の黄色細砂が全く含まれなくなり、黄褐色砂礫のみになった。また、石灰岩チップや遺物も全く出土しなくなった。このことから、1970年代に丘陵頂部が軍事利用された際の活動に関連する掘り込みであった可能性が考えられる。

このように、トゥーム・チャペルとカエムワセトの石造建造物の間には、第19王朝時代の施設などは確認されず、当時から両所を行き来するための場所として残されていたことが明らかとなった。



図1 サッカラ地図

Fig.1 Map of Abusir-Saqqara area

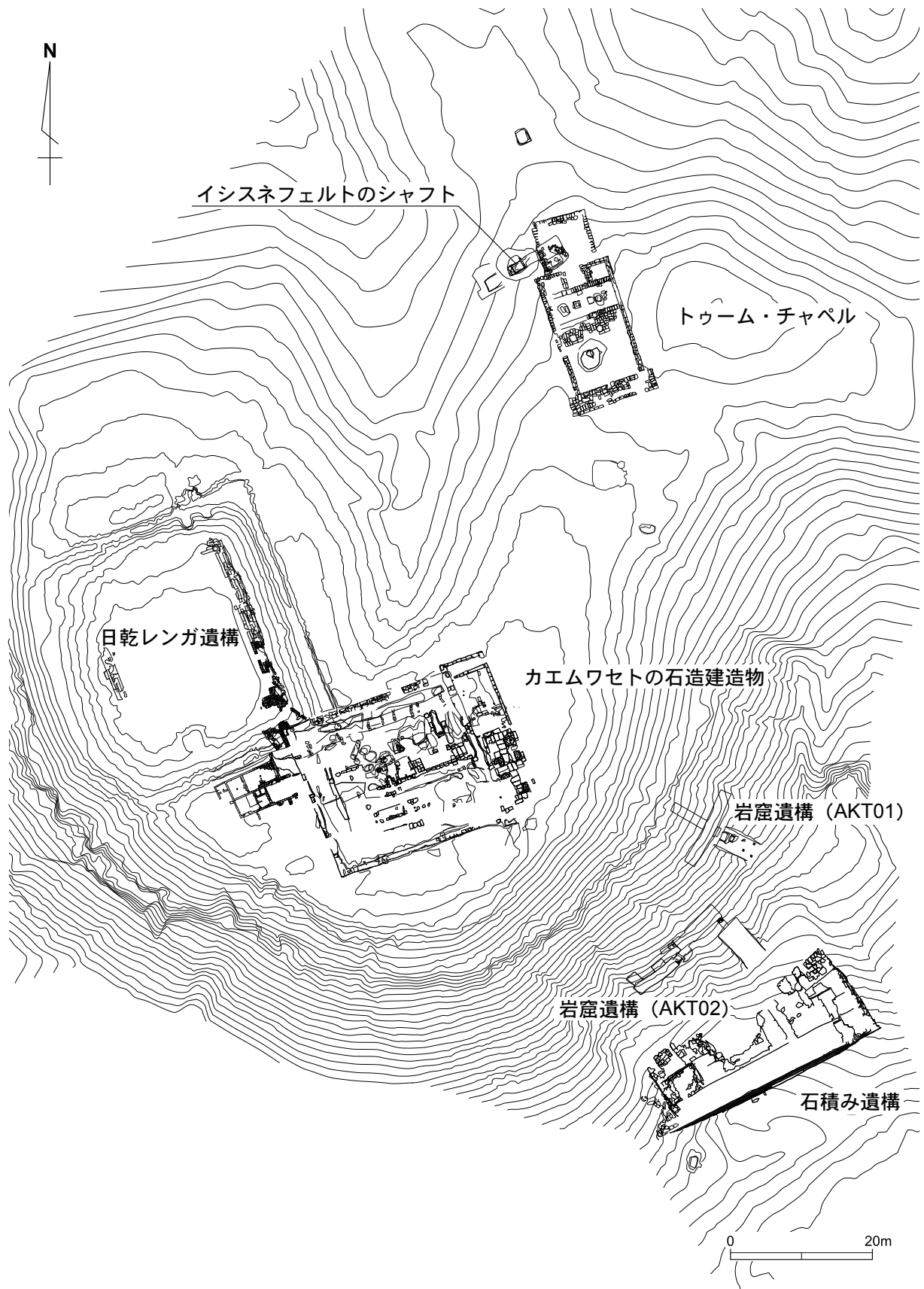


図2 アブ・シール南丘陵遺跡地図

Fig.2 Map of the site

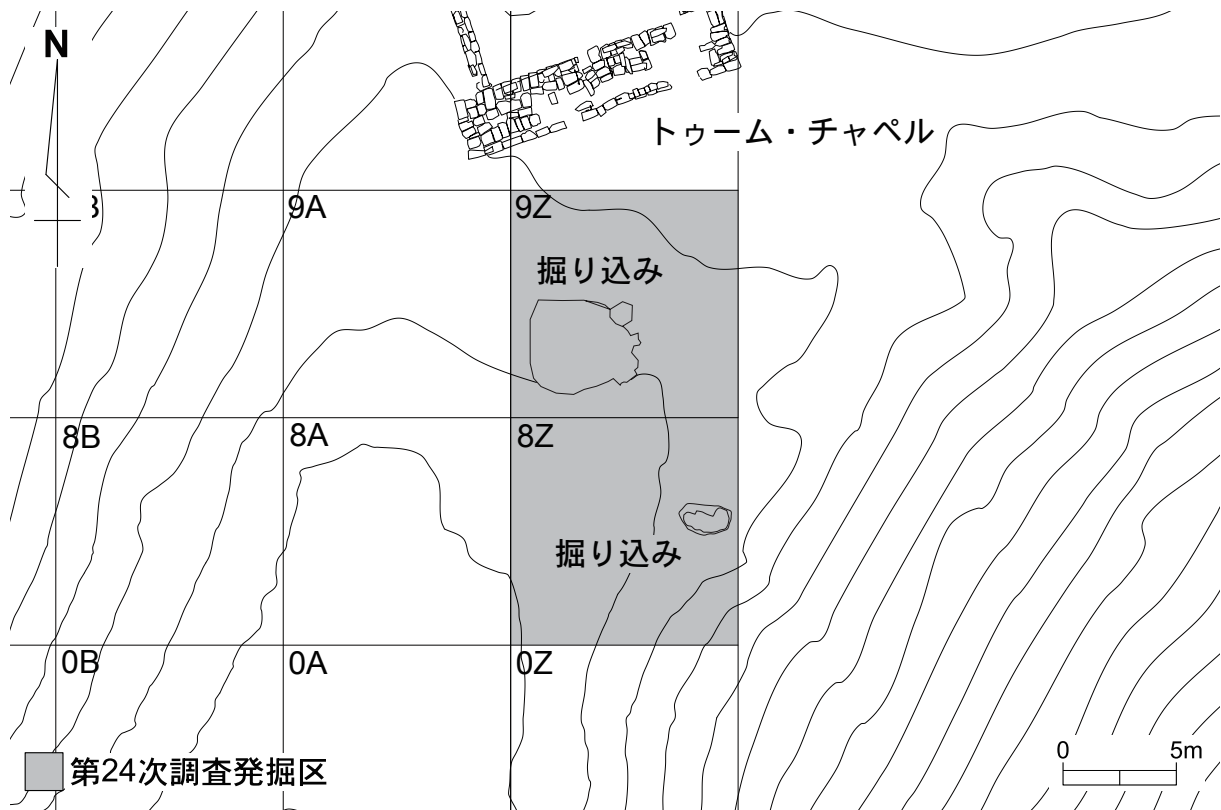


図3 イシスネフェルトのトゥーム・チャペル南側の発掘区  
Fig.3 The area to the south of the tomb chapel of Isisnofret



写真1 イシスネフェルトのトゥーム・チャペル南側の発掘区（発掘調査後、西より）  
Pl.1 The area to the south of the tomb chapel of Isisnofret, after excavation, looking from west

## (2) カエムワセトの石造建造物内

第23次調査においてカエムワセトの石造建造物の南側の発掘調査を行った際に、地山層と中込層を再度確認する必要性が認識されたことから、第24次調査では、過去の調査において地山層の精査が行われていなかったカエムワセトの石造建造物の中心部にあたる奥室から西側の部分を精査することを目的に調査を実施した(図4, 写真2)。

発掘調査の結果、今回の調査区域において11の掘り込みを発見した。このうち4つの掘り込みには、しまりのある風成の黄色ないしは白色の細砂が詰まっており、旧石器時代の採掘坑であった可能性が考えられる<sup>5)</sup>。また、奥室背後の掘り込みからは珪岩と方解石の破片が出土しており、これらは第10次調査でも出土した鎮壇具(ファウンデーション・デポジット)の一部と考えられる(吉村他 2003: 19, Fig.11)。

その他、4つの掘り込みは、2つずつそれぞれ切り合っており、しかもどちらかが深くもう一方は浅い形状をしていた。これらの掘り込みからは、アラビア語の書かれたビニール袋など現代遺物が複数点出土していることなどから、軍事施設が存在した1970年代に訓練のために掘られたものである可能性が考えられた。

## (3) イシスネフェルトのシャフト周辺

2009年の第19次調査時にシャフト周辺の発掘調査を行ったところ、シャフト周辺にはシャフトの掘削排土および盗掘排土と考えられる層が円環状に堆積していることが確認された(吉村他 2010: 52)。昨年度の第23次調査より、古代におけるシャフトの掘削から、埋葬後の埋め戻し、そしてその後の盗掘活動について考古学的に明らかにするために、シャフト周辺に円環状に堆積している箇所の発掘調査を行った。層位を確認するために、シャフトの西側でトレンチ発掘を行ったところ、地山の上には、岩盤由来の多孔質石灰岩を主体とする2つの層が確認され、内容物の差異から、下層の多孔質石灰岩層②は、シャフト、埋葬室の掘削排土、上層の多孔質石灰岩層①は盗掘排土と考えられた(吉村他 2016: @)。

これらの調査結果を踏まえた上で、第24次調査では、第23次調査のトレンチを基準としてシャフトの周囲の堆積の発掘調査を行い、シャフト周辺の活動を改めて確認することを目的とした(図5, 写真3)。

発掘調査の結果、シャフトの西側には、シャフトの短辺にほぼ一致する幅で、シャフトに向かって下降する面を確認することができた。この下降面は2009年の第18次調査においても、シャフトの際に確認されており、連続すると考えられる。この下降面は、石棺の搬入に伴って造られた傾斜路と考えられている(吉村他 2010: 26)。シャフトの西側に堆積していた多孔質石灰岩層②は、この下降面を覆うように堆積しており、こうしたことから、埋葬が終了した後に、シャフト、埋葬室の掘削排土によって、シャフト自体を埋め立て、封鎖したものと考えられる<sup>6)</sup>。

シャフトの北側には日乾レンガ積みを確認された。また、日乾レンガ積みの一部食い込むような形で石灰岩ブロックが6点確認された(図5, 写真4)。日乾レンガ積みは、地山上から詰まれており、またその周囲には、多孔質石灰岩層②が堆積していることから、この日乾レンガ積みは、シャフト造営時のものと考えられる。日乾レンガ積みは、モルタルなどを間に使用しない空積みであり、縦横交互に積まれていた。ただし、何らかの建物のようになっているわけではなく、単に日乾レンガを整理してまとめたように考えられる。第18次調査でのシャフトの発掘の際には、シャフトの東縁に沿って土留と考えられる日乾レンガ列が確認されており(吉村他 2010: 26)、今回の調査で見つかった日乾レンガ積みは、こうした土留の日乾レンガの壁を築くために、そのすぐ脇に準備のために置かれていたと考えられる。

一方の石灰岩ブロックは、多孔質石灰岩層②を斜めに掘り込んだ後に堆積している多孔質石灰岩層①に含まれていることから、後世の盗掘時の活動に関連するものと考えられる。第18次調査のシャフト発掘時にも、



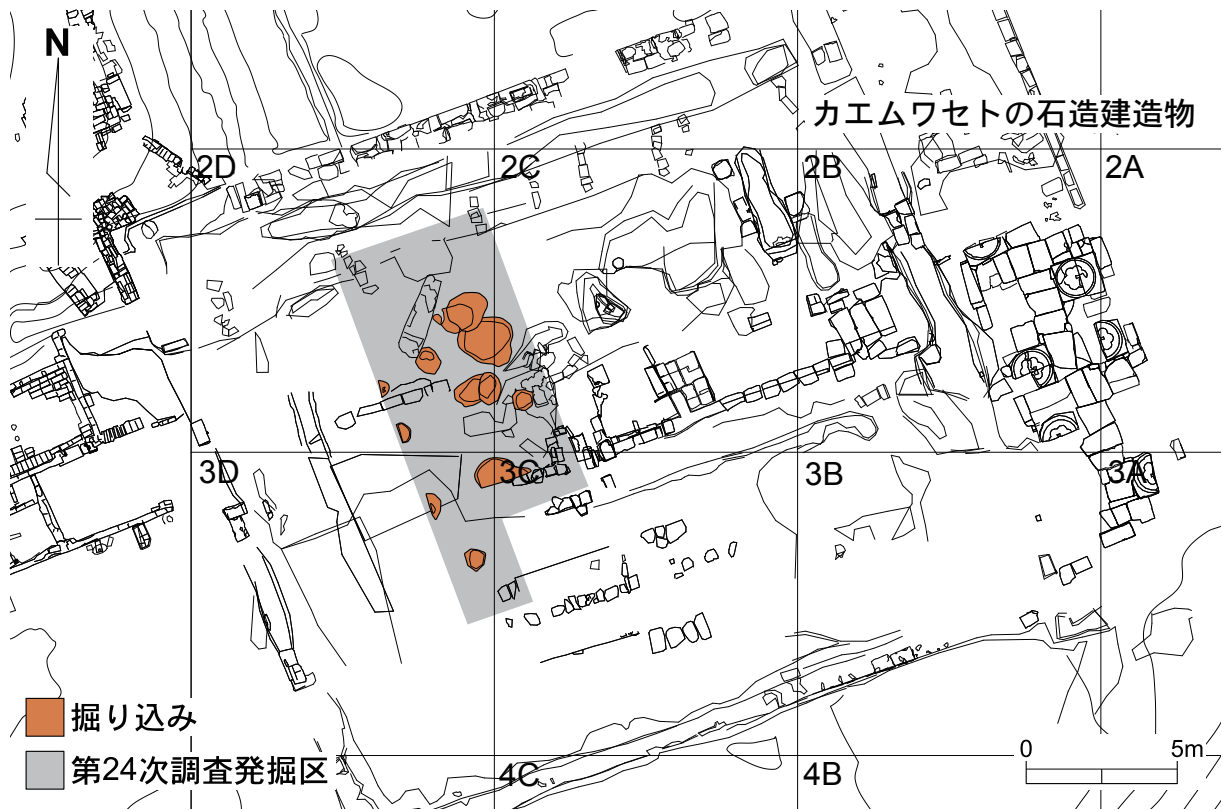


図4 カエムワセトの石造建造物内の発掘区

Fig.4 The area to the west of the inner chamber of the monument of Khaemwaset



写真2 カエムワセトの石造建造物内の発掘区（発掘調査後、西より）

Pl.2 The area to the west of the inner chamber of the monument of Khaemwaset, after excavation, looking from west

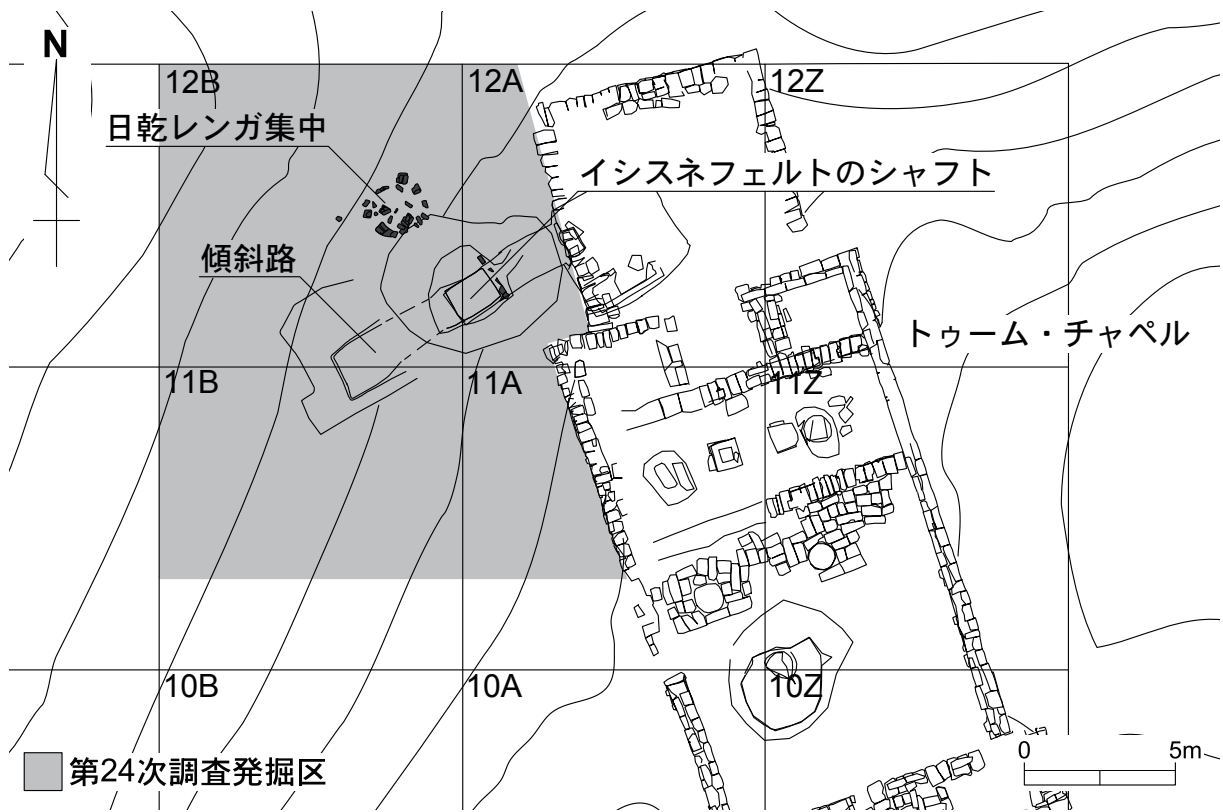


図5 イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘区  
Fig.5 The area around the shaft of the tomb of Isisnofret



写真3 イシスネフェルトのシャフト周辺の発掘区（発掘調査後、東より）  
Pl.3 The area around the shaft of the tomb of Isisnofret, after excavation, looking from east



写真4 日乾レンガの集中（北より）  
Pl.4 A concentration of the piles of mud-bricks

シャフト上部から類似した石灰岩ブロックが発見されており、これらはもともとトゥーム・チャペルに使用されていた石灰岩ブロックであると考えられている（吉村他 2010: 20）。こうした点から、今回発見された石灰岩ブロックもトゥーム・チャペルに由来するものと考えられる。

### 3. 主要出土遺物

#### (1) レリーフ片

イシスネフェルトのトゥーム・チャペルの南側の発掘区のグリッド9Zの掘り込みからは2点の石灰岩レリーフ片が出土した。1点は下部に水平の銘文帯が施され、その上に左からヒエログリフの*s*のサインの一部と*n*のサインが高浮き彫りで表現されている（図6.1）。もう1点は縦の銘文帯が施され、その左側に*gm*のサインの一部があり、その右側には矩形の構造物の上に乗るハヤブサを表したサインと*m*のサインが高浮き彫りで表現されている（図6.2）。これらのレリーフ片は、これまで出土した類例から判断するとカエムワセトの石造建造物の壁面を装飾していたものと考えられる<sup>7)</sup>。

また、カエムワセトの石造建造物の奥室背後から、奥室にある赤色花崗岩製の偽扉の一部が出土した（図6.3）。この破片は、偽扉中央部の幾何学的な装飾の一部で、偽扉と接合可能である（写真5）。

#### (2) 石製容器片

グリッド9Zの円環状の石灰岩集中の下から石灰岩容器の口縁が出土した。方解石製で、皿の一部であると考えられる（図6.4）。類例は古王国時代第3王朝の皿形の石製容器に見られる（Aston 1994: 84, Fig.13, no.110）。

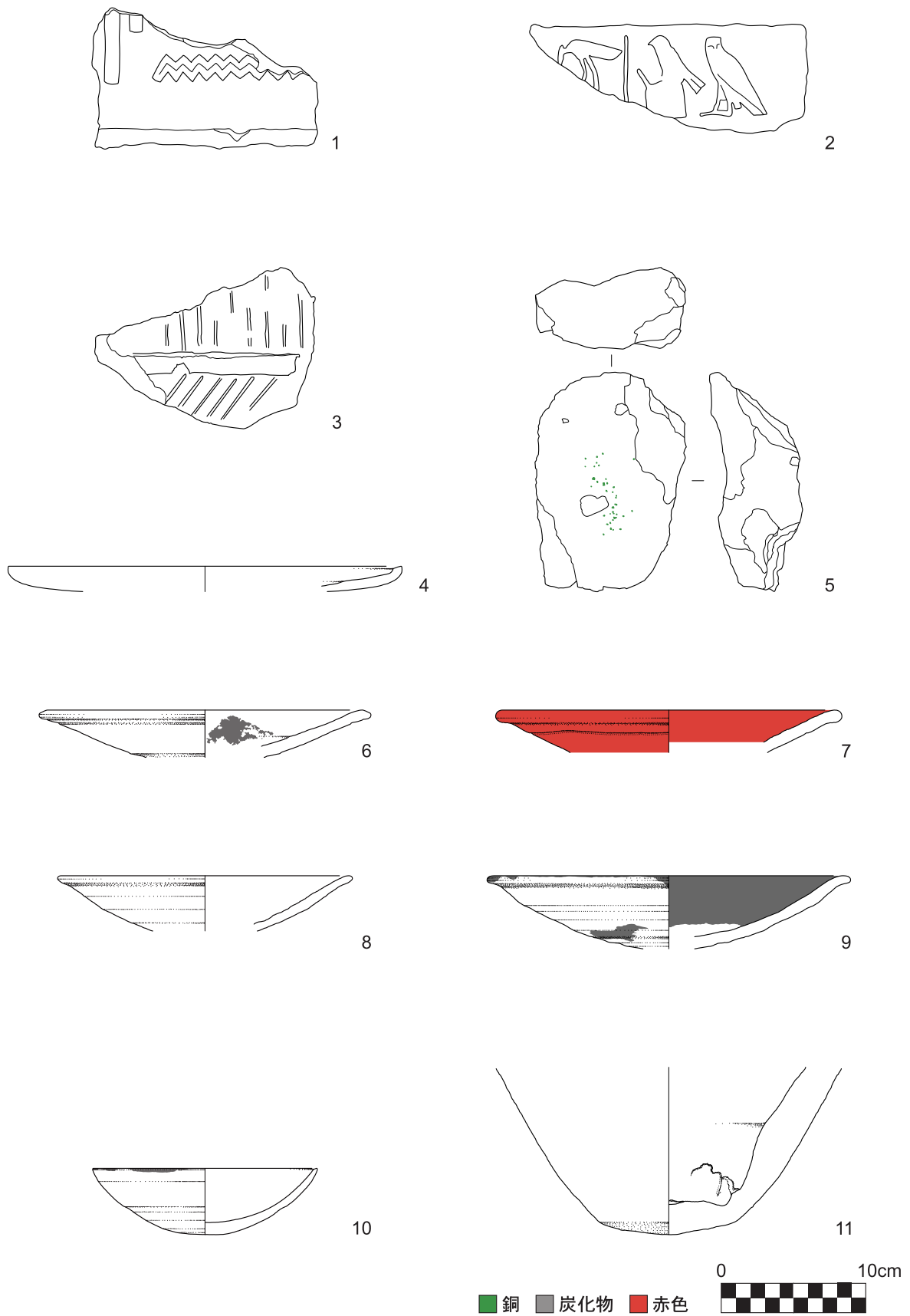


図6 主要出土遺物

Fig.6 Major finds



写真5 カエムワセトの石造建造物の赤色花崗岩製偽扉の接合  
Pl.5 New piece jointed to the red-graniet fales-door of Khaemwaset

### (3) ハンマー・ストーン片

イシスネフェルトのシャフトの北側の多孔質石灰岩層①から幅 10.4cm、高さ 5.6cm、厚さ 15.2cm の珪岩が出土した (図 6.5)。表面に緑青が附着していることから、ハンマー・ストーンであったと考えられる。シャフトの掘削の際に使用された道具であった可能性がある。類似した珪岩製のハンマー・ストーンは、第17次調査においてもトゥーム・チャペルから発見されている (吉村他 2009: 22-23, Fig.7.1, 2)。

### (4) 土器

今期調査では、主にイシスネフェルトのシャフト周辺から土器片が出土した。特徴的な土器片として皿形土器とアンフォラが挙げられる。多孔質石灰岩層から出土した皿形土器には、焼成の痕跡が見られるものもある (図 6.6-9)。また、地山直上からも、焼成の痕跡がある皿形土器が出土した (図 6.10)。類例はサッカラのティア墓などにある (Aston 1997: Pls.112.10, 115.81, 82)。また、アンフォラは底部が出土しており (図 6.11)、胎土は Mixed clay である (Aston and Aston 2001: 52; Bourriau et al. 2005: 68-69)。類例はサッカラのティア墓などにある (Aston 1997: Pl.120.162)。いずれも断片であり詳細は不明であるものの、トゥーム・チャペルやシャフト周辺における活動に関連するものと考えられる。

## 4. まとめと今後の課題

今次調査で、カエムワセトの石造建造物およびイシスネフェルト墓のシャフト周辺の精査が完了し、アブ・シール南丘陵遺跡の丘陵頂部は、概ね発掘が終了した。今後は未発掘エリアの発掘調査を継続しつつ、遺跡の整備・保存について本格的に着手する計画である。また、報告書刊行のために、出土遺物の詳細な記録、

研究を行っていく予定である。今後、これまで発掘した各遺構別に報告書をまとめ、国内外に発信していくことにも重点的に取り組んでいきたい。

#### 謝辞

本調査は、日本学術振興会科学研究費基盤研究（A）「葬制から見た古代エジプト文明の変化とその社会的背景に関する学際的研究」（研究代表者：吉村作治）および基盤研究（B）「エジプト、サッカラにおける新王国時代の墓の調査研究」（研究代表者：河合 望）の助成を受けて実施された。ここに記して感謝申し上げます。

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古大臣マムドーフ・アル＝ダマディ閣下（博士）、外国調査隊管轄事務局長ハニー・アブー・アル＝アズーム氏、サッカラ査察局長アラ・アル＝シャハータ氏、同副局長サブリー・ファラグ氏、チーフ・インスペクターのムハンマド・ユーセフ氏およびハムディ・アミン氏、サッカラのセリーム・ハッサン遺物収蔵庫の館長ラガブ・トゥルキ氏、我々の調査の査察官ムハンマド・シャーパーン・アブド・アル＝ザーヘル氏を始めとする多大なご協力を頂いた（肩書きは調査時のもの）。カイロでは、早稲田大学エジプト学研究所カイロ・オフィスの吉村龍人氏、ムハンマド・アシュリー氏に考古省との渉外などで大変お世話になった。

また図版の作成には、本調査に参加した準隊員の有村元春（早稲田大学文学部考古学コース3年）の協力を得た。

ここに記して感謝の意を表する。

#### 註

- 1) 調査の参加者は以下の通りである。考古班：吉村作治、近藤二郎、高宮いづみ、河合 望、高橋寿光、米山由夏、松永修平、山崎世理愛、有村元春（準隊員）、建築班：柏木裕之、保存修復班：荻谷浩子、人類学班：馬場悠男、坂上和宏、現地渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー
- 2) イシスネフェルトの石棺の保存修復作業については、別稿で報告する（荻谷他 2016）。
- 3) イシスネフェルトのトゥーム・チャペルが南北軸を持つ理由については、かつて河合はカエムワセトの石造建造物に付属する関係から説明した（Kawai 2012）。
- 4) 1970年代の軍事施設の活動については、早稲田大学エジプト学研究所編 2001: 10 を参照。
- 5) アブ・シール南丘陵遺跡における旧石器時代の採掘坑は、1995年の調査などで発見されている。詳細は、早稲田大学エジプト学研究所編 2006: 238 を参照。
- 6) 第18次調査時のシャフト内部の発掘調査では、シャフトの最下部に岩盤由来の多孔質石灰岩を含む層が確認されており、もともとシャフト内部に掘削排土などが詰められていたと考えられている（吉村他 2010: 24, 26）
- 7) カエムワセトの石造建造物に由来するレリーフについては、早稲田大学エジプト学研究所編 2001: 150-205; 2006:45-80; 2007: 79-85 等を参照。

#### 参考文献

- Aston, B.G.  
1994 *Ancient Egyptian Stone Vessels: Materials and Forms*, Heidelberg.
- Aston, D.  
1997 "The Pottery", in Martin, G.T., (ed.), *The Tomb of Tia and Tia: A Royal Monument of the Ramesside Period in the Memphite Necropolis*, London, pp.83-103.
- Aston, D.A. and Aston, B.G.  
2001 "The Pottery", in Martin, G.T., van Dijk, J., Raven, M.J., Aston, B.G., Aston, D.A., Strouhal, E. and Horáčková, L. (eds.), *The Tombs of Three Memphite Officials, Ramose, Khay and Pabes*, London, pp.50-61.

Bourriau, J., Aston, D., Raven, M.J. and van Walsem, R.

2005 *The Memphite Tomb of Horemheb: The New Kingdom Pottery*, London.

Kawai, N.

2012 “The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara”, in Bárta, M., Coppens, F. and Krejčí, J. (eds.), *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, Prague, pp.497-511.

吉村作治、長谷川奏、菊地敬夫、河合 望、西坂朗子

2003 「考古班報告」、『エジプト学研究』別冊第 6 号、早稲田大学エジプト学会、pp.11-28.

吉村作治、河合 望、柏木裕之、西坂朗子、高橋寿光

2010 「II. 第 18 次調査概要」、『エジプト学研究』別冊第 14 号、早稲田大学エジプト学会、pp.14-48.

早稲田大学エジプト学研究所編

2001 『アブ・シール南 [I]』、鶴山堂.

2006 『アブ・シール南 [II]』、Akht Press.

2007 『聖なる丘の発掘アブ・シール南 [III]』、シーズ・プランニング.





エジプト学研究 第22号

2016年3月31日発行

発行所 / 日本エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.22

Published date: 31 March 2016

Published by The Japan Society of Egyptologist

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Japan Society of Egyptologist